

Manual □ 十五夜のお月さんな

Step 1

まずは全員で練習する

【メロディー（ユニゾン）】

- ・歌いはじめの音をそろえる。
- ・地声でもいいので、明るく歌う。

☞ユニゾン:全員で同じメロディーを歌うこと(斉唱)

Step 2

2つに分かれて歌う

【メロディー（カノン）】

- ・後から入るパートは、先に入るパートの音の高さに合わせることを意識して歌う。
- ・テンポが速くならないようにする。

☞カノン:同じメロディーをずらして歌うこと(輪唱)

Step 3

新しいパートを歌う

【オブリガート（ユニゾン）】

- ・高音部から始まるので、のびやかに声をだす。
- ・下行していく旋律なので、音が下がり過ぎないように注意して歌う。

☞オブリガート:メロディーを補助するもう一つのメロディー(助奏)

Step 4

2つに分かれて歌う

【メロディー（カノン） + オブリガート（ユニゾン）】

- ・「サッサヨーイ」の「s」の子音を意識すると、よりおもしろくなる。
- ・他声部を聴きながら歌えるようになるまで練習する。
- ・いきなりオブリガートのカノンをメロディーに重ねるのが難しい場合は、メロディー（ユニゾン）にオブリガート（ユニゾン）を重ねるステップを作るなど、子どもの様子に応じて工夫してください。

Step 5

4つに分かれて歌う

【メロディー（カノン） + オブリガート（カノン）】

- ・Step 4 までに比べて難しくなるので、子どものレベルに応じて扱う。

☆ この曲は「サッサヨーイ」の効果がおもしろいため、聴き合う活動を取り入れると効果的です。

☆ うまくいかないときは、はじめに戻って練習しましょう。

☆ テンポを速くしたり、円になって歌うなど、色々な方法で楽しく歌うことができます。

Challenge !

- ★ Vol.1、Vol.2で紹介したわらべうたは、すべてパートナーソングとして同時に重ねて歌うことができます。

十五夜のお月さんな

九州地方のわらべうた

ゆっくり 静かに

The first system of musical notation consists of two staves in 2/4 time. The upper staff is a vocal line with lyrics 'サ サ サー サ サ サー' and circled numbers 1 and 2 above the first two measures. The lower staff is a piano accompaniment line with circled numbers 1 and 2 above the first two measures. The melody is simple and repetitive, using quarter and eighth notes.

じゅうごやの おつきさんな まつのかげ

The second system of musical notation continues the piece, starting with a measure number '5' at the beginning. It features two staves in 2/4 time. The upper staff has lyrics 'サ サ サノ サ ササ ヨ -イ' and the lower staff has lyrics 'まつから さされて ささのかげ ササ ヨーイ'. The notation includes a fermata over the final note of the second system.

まつから さされて ささのかげ ササ ヨーイ

音楽用語

- ユニゾン： 同度の音、あるいは同度の旋律を1声部あるいは数声部と一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。
- カノン： 厳格な模倣様式による多声楽曲の形式および技法。ある1声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2声カノン、3声カノンや2重カノン、同度カノン、2度カノン・・・など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。
- ピッチ： 音高（音の高さ）
- オスティナート： ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。
- オブリガート： 助奏。とくに、ひとつの歌声と協奏する声部のことであり、独唱（奏）に加えて演奏される伴奏以外のパートを指す。もとは、楽曲に不可欠で省略できない声部のことであり、アド・リビトゥム（ad lib.）の対語である。
- 不協和音程： 2音が協和しない音程。振動数比が複雑で、同時に鳴ると濁った響きを生む。
- トーンクラスター： 2度以内の音程で密集した音の塊のこと。調的な機能を持っていない点で、和音とは区別される。20世紀後半におけるもっとも重要な技法のひとつ。
- オルガナム： 9世紀から13世紀のヨーロッパで行われた合唱の技法であり、初期の多声楽曲のこと。ひとつの旋律に対し、常に4度・5度音程をなす声部を加えて歌うもの。初期は2声の合唱であったが、発展するにつれて声部も増え、1度・4度・5度・8度の完全音程を中心に、3度・6度なども使用された。平行オルガナム、反行オルガナム、自由オルガナムなどがある。

[出典]

- ・目黒惇編(1983)『新訂合唱事典』音楽之友社
- ・浅香淳編(1991)『新訂標準音楽辞典』音楽之友社
- ・柴田南雄、遠山一行総監修(1996)『ニューグローブ世界音楽大事典』講談社
- ・金澤正剛監修(2004)『新編音楽小辞典』音楽之友社
- ・小西友七、南出康世編集主幹(2006)『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店

参考文献

- ・フォライ・カタリン、セーニ・エルジェーベト共著(1975)『コダーイ・システムとは何か』
羽仁協子、谷本一之、中川弘一郎共訳 全音楽譜出版社
- ・カルドシュ・パール(1994)『合唱の育成・合唱の響き』
羽仁協子監修、菅原恵利訳 全音楽譜出版社